

■聞き取りの概要

1. 廃漁網の樹脂化、取り組みの経緯

- ・ 同社は、塩化ビニルの樹脂化で、カーペットの裏面をリサイクルする事業を主力とする。カーペットの表面の素材はナイロン。「いずれナイロンもリサイクル原料で作りたいね」と考えていた。
- ・ 2016年、三菱系列（ケミカルグループ）で、ゴムの製造をおもな事業とする日東化工株式会社 <http://www.nitto-kk.co.jp/> が、事業部門を整理。日東化工は30年前から北海道で廃棄する100%ナイロン製の漁網（刺し網）を集めリサイクル原料としていたが、その部門を他社に売却することに。たまたまりファイナンスに三菱のOBがいて橋渡しをし、この事業をそっくり買い取った。
- ・ 日東化工は、単に安い原料として漁網を集めていて、環境という視点はなかった。ところが2年ほど前から「海洋プラスチック」がブームとなり、リファイナンスとしては環境に取り組む企業としてのイメージアップにつながり「ラッキーだった」と感じている。

2. 廃漁網回収の仕組みづくり

- ・ リサイクルするには、100%ナイロン製で、しかも貝類や藻類などの汚れのない漁網が必要。また、現地で浮きと錘の部分を切り離してもらうことも必要。
海岸の漂着ごみは、ごみが付着しているし、浮きや錘が絡まっているので、原料としてはむずかしいだろう。陸上に放置されているナイロン製の網なら可能性がある。
- ・ 刺し網はすべてナイロン製。日東化工は北海道で、刺し網の回収システムをすでに確立。定期的に浜を回り、処理された網を回収していた。事業と一緒にこの回収システムも引き継いでいる。実際に浜を回っているのは、有限会社山本漁網店（北海道厚岸町）。
- ・ 新たに、条件に合致する素材を探し、日本製網工業組合に相談したところ、同組合の幹事的な大手製網会社、ニチモウ株式会社 <https://www.nichimo.co.jp/> に「熱い社員」がいて、趣旨に共感。昨年、同組合とリファイナンスとで、協業の契約を結んだ。
- ・ ニチモウのこの社員は、カツオ・マグロの巻き網（注）が100%ナイロン製なのに着目し、ニチモウの石巻工場を中心に回収の道筋をつけた。現在、回収元を全国に広めつつある。
（大浦注：沖合漁業の大中型巻き網漁。農林水産大臣による許可漁業。石巻漁港を水揚げ基地にするカツオ・マグロ漁は5月～9月が漁期。漁網は高さ250m、周囲1km以上）
- ・ 上記の巻き網は、すべて黒色。関東ではイワシ用の赤い巻き網が使用されているが、ナイロン以外の成分が入っている場合がある。
- ・ 定置網は、ナイロン製はほとんどない。養殖いけす用の網は、多少ナイロン製がある。ノ

リ養殖網などにも多少ナイロン製があるが、どちらも汚れが多くリサイクルには向かない。

- ・ 漁網は、3割がナイロン、4割がポリエステル。

3. 廃漁網の回収状況

- ・ 現在の原料収集量は、年間 300 トン。まったく足りない。まず 1000 トンを目標にする。
- ・ 巻き網については、全国規模でほぼ回収システムのめどが立った。もともと廃漁網がメーカーに集まる仕組みがある。
- ・ 今後のターゲットは刺し網。各方面に相談や調査を展開中。全漁連の資材課に相談したところ、「無理ですね」との回答。小さな浜や漁業者個々のレベルに、あまりに分散しているためとのこと。
- ・ 陸域で使用されているナイロン網やロープなどにも、今後は対象を広げるつもり。今、漁網にこだわっているのは、もともと日東化工が安価な漁網を対象としていたことと、プラスチック海洋プラスチックの話題性のため。
- ・ リファインバースー宮工場では、産業廃棄物処理業の許可をとっていない。廃掃法に抵触しないよう、廃漁網の買い取りは「1円 (/kg とか、t とか) で売ってください。送料はこちらで負担します」というケースもあれば、産廃処理費用より安い場合は送料を出元で負担してもらうこともある。
- ・ 北海道の刺し網は 20 トントレーラーに積んで（刺し網は軽いがかさばるので 8 トンしか入らない）、フェリーで最寄りの港（名古屋港？）まで運ぶ。輸送にエネルギーを消費するので「エコじゃない」。関東東海圏で、入手できるシステムを作りたい。
- ・ 巻き網は 10 トン車で 9 トン積んで運搬。1 キロ当たりの送料が 10 円ならまあまあ、という経費勘定をしている。

4. リサイクルの工程、加工製品

- ・ 工場に運び込んだ廃漁網は、洗浄機で汚れを落とし、乾かしてから樹脂化し、「原料ペレット」に加工する。歩留りは 90%ほど。
- ・ このペレットを原料として、現在は建材や自動車の部品を作っている。
- ・ 現在、繊維に加工して、アパレル産業で使う研究を進めている。かばんやアウターの素材として。漁網を再生できれば完全なリサイクルだが、堅牢性に問題がある。リサイクル品はどうしてももろくなりやすい。また、採算ベースも疑問。

今の日本で、リサイクルに付加価値がつくのはアパレル業界のみ。

- ・ 漁網メーカーが、単一素材の漁網を作ってくれるのがいちばんの理想だが、日本の漁具は細かく熱心に研究し、さまざまな製品を作ってきた。そのまじめさがハードルになってい

る。国の主導がないかぎり、不可能では。

(作成：大浦佳代・海と漁の体験研究所)